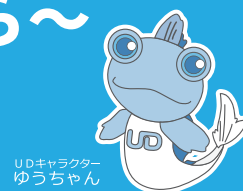
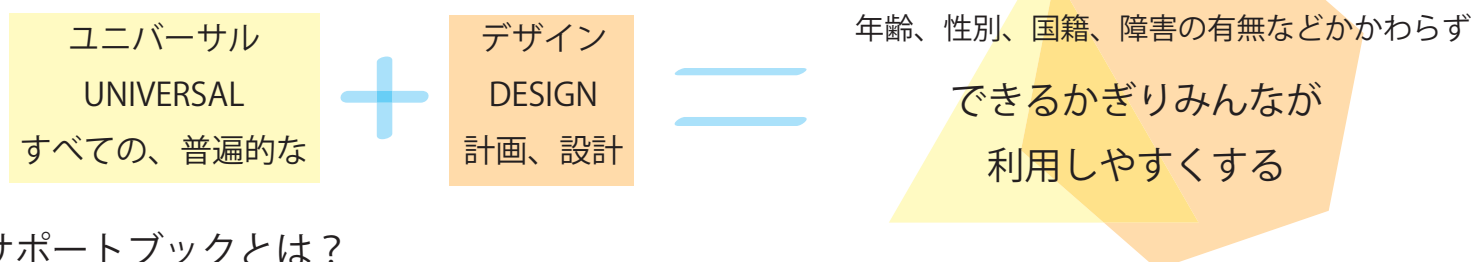


# みんなで楽しむイベントづくりサポートブック ～ユニバーサルデザインの視点から～ 概要版



## ユニバーサルデザイン (UD) とは？



## サポートブックとは？

「佐賀ユニバーサルデザイン推進指針 2015」に基づき、会議や講演会、展示会などのイベントにおいて、できるだけ多くの人々が楽しく、快適に、安全に参加できるよう、気をつけたいポイントをまとめたものです。

## サポートブックの構成

イベントの企画から終了までの各段階のうち、この概要版では、特に大切な3つの段階をピックアップしています。



## 大事な3つのポイント

- ▶ **参加者のニーズを把握すること**  
まずは、事前に、参加者の特性や希望の把握に努めることが大切です
- ▶ **会場（通路幅、段差、アクセス等）を把握すること**  
会場の通路幅や段差の有無、トイレの設備や会場までのアクセス状況などを把握し、正確な情報を提供できるようにしましょう
- ▶ **参加者に情報が伝わるよう配慮すること**  
事前に把握した参加者ニーズを踏まえ、情報が参加者に伝わるよう準備しましょう

より詳しい内容を知りたいときは・・・

さがUDラボ

検索

# ユニバーサルデザインの視点とは

障害のある人や高齢者、外国人、妊産婦、子ども連れの家族など、様々な方々が参加できるようなイベントづくりの視点のことで。

ユニバーサルデザインの視点からのサポート例をいくつかご紹介します。

## 障害のある人

- 聴覚障害**
  - ✓ 音声情報（アナウンス・講演など）は、視覚化しましょう
  - ✓ 手話ができなくても、筆談等でコミュニケーションする方法もあります
- 視覚障害**
  - ✓ 白杖と呼ばれる杖を使う人や、盲導犬を連れている人もいます
  - ✓ 視覚情報は音声化したり、触って分かるようにしましょう
- 手や足、体幹機能などの障害**
  - ✓ 歩行困難な場合には、車いすや、杖を使う人もいます
  - ✓ 段差や階段、急な坂のないルートを準備しましょう



## 妊婦・乳幼児連れの人



- ✓ 妊娠中は、足元が不安定になります
- ✓ 段差や階段、急な坂のないルートを準備しましょう
- ✓ 子どもと一緒に入れるトイレ、オムツ換えや授乳場所の確保を検討します

## 高齢者

- ✓ 目や耳、足腰などの身体機能が低下しますが、症状・程度は人によって様々です
- ✓ 大きな文字やイラスト、分かりやすい説明等、伝わる情報提供の仕方を工夫しましょう

## 参加者みんなに快適なイベントに

参加者には、特に配慮が必要な方だけでなく、様々な人がいます。例えば、音声だけでなく、文字でも案内を表示すれば、聴覚障害のある方、高齢者、音声を聞きのがした人、外国人等にとって有効です。ユニバーサルデザインの視点を取り入れることは、参加者みんなにとって快適なイベントづくりにつながります。

### 15時にイベントが始まります



15時にイベントが始まるんだね！

## 外国人

- ✓ 日本語が読めない人、読めるけれど会話はできない人もいます
- ✓ 多言語表記の他に、「やさしい日本語」や、ピクトグラム（絵文字）等を活用しましょう

### One Point

#### コミュニケーションボード

外国の方や聴覚障害のある方など、話し言葉での会話が難しい場合に、コミュニケーションを支援するツールです。受付などに準備しておきましょう。（左図は、嬉野市「指さす会話板」）



# イベントを開催しましょう！－企画・準備－

## 会場の選定に当たって

### ① 駐車場

**Check** 障害のある方が利用できる駐車場はありますか？

車いす使用者は、自家用車を移動手段とすることが多いため、必ず、身障者用駐車場があるか確認しましょう。



### ② 出入口

**Check** 車いす使用者やベビーカーを使用している人が通過しやすい幅が確保されていますか？

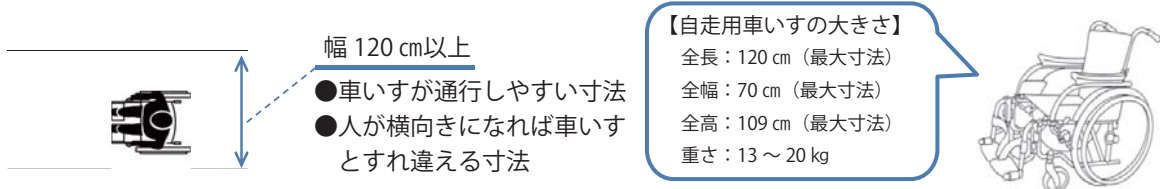
出入口の幅は、一般的な車いすであれば70 cm以上、大型の車いすであれば80 cm以上あると概ね通過できます。

### ③ 通路

**Check** 会場内を誰もがスムーズに移動できますか？（段差の有無）

**Check** 混雑や車いすとのすれ違いにも対応できる余裕ある通路幅が確保されていますか？

通路幅と車いす規格



### ④ エレベーター

**Check** 車いす使用者が利用しやすいよう十分な出入口幅のエレベーターはありますか？

出入口幅のほか、奥行き、乗り場のボタンの位置、音声案内など、誰もが利用しやすい仕様になっているか確認しましょう。

### ⑤ トイレ

**Check** 多機能トイレは設置されていますか？

車いす使用者や高齢者、子ども連れなどが利用できるトイレが設置されているか確認します。



これらは、基本的なチェックポイントです。

各イベントにおいて、参加者の特性や希望に対応できる会場を選びましょう。

➤➤➤ チェックポイントに満たない場合の対応など、より詳しく知りたいときは、サポートブック本編をご覧ください。

## － 広報・参加申込み －

### 参加者ニーズの把握

まずは、できる限り、事前に参加者の特性やニーズの把握に努めることが大切です。

- ▶ あらかじめパンフレット等に「手話通訳や託児サービス、車いす席等の要望があれば事前に連絡願います。」と明記する
- ▶ 申込書に、手話通訳や託児サービス、車いす席など提供するサービスを記載し、希望するものについてチェックする欄を設ける

参加者の特性  
に応じて検討する  
サービス例

手話通訳、要約筆記、外国語通訳、点字資料、拡大文字資料、車いす席、身障者用駐車場、託児サービス（ 歳児 人）、車いす貸出、ベビーカー貸出 など

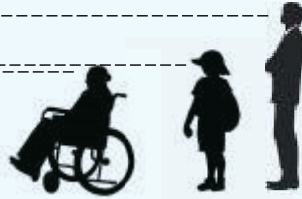
➤➤➤ 申込み不要のイベントでも、どのような参加者が見込まれるのか想定し、対応できる配慮事項・サービスや実施の方法を検討します。

# － 会場内の設営など －

## 配置

通路や点字ブロックの上などには物を置かないようにします。  
また、展示物や解説板は、子どもや車いす使用者等も見ることができる高さや角度に配置します。

### 展示物の高さ



#### 目線の高さの平均

成人立位 約 160 cm

車いす使用者 約 110 cm

10 歳（小学校 5 年生） 約 135 cm

## 段差

階段や段差がある場合は、次の対応を検討します。

### 施設の応急処置

板などによる簡易スロープの設置など

### 人的な支援

係員を配置して、車いすや杖を使っている人を介助するなど



← 簡易スロープ

## 情報伝達

アナウンスや講演などの音声情報が、様々な参加者に伝わるよう、次のような手段を検討します。

- ▶ 講演に手話や要約筆記を導入する
- ▶ 場内アナウンスは掲示板やスクリーンでも掲示する
- ▶ 外国人に対しては、通訳者を配置するほか、要約筆記等に対応する  
(音では日本語が聞き取れなくても、文字にするとわかる、という方もいるため)



### 手話通訳

音声情報を手の動きで表現して伝える方法



### 要約筆記

講演者等の発言内容を逐次要約・筆記して参加者に提供する方法

パンフレットなどの配布資料は、次のような点に配慮し、分かりやすいものとします。

- ▶ 文字はなるべく大きな文字（12ポイント以上）のゴシック体や、見やすいフォントを用いる
- ▶ 文章は短く、内容を簡潔にし、絵や写真などを使う
- ▶ 誰にでも見やすい色使いに配慮し、明暗の差をつける

### One Point

#### 色とユニバーサルデザイン

「緑」と「赤」の違いが分かりにくいなど、色の識別が難しい人もいます。  
資料を作成するときは、次のような点に配慮しましょう。

- ・色が接する場合、色の明るさを変える（明度差をつける）
- ・色と色の間に別の色で境界を入れる（セパレーションを用いる）
- ・色だけでなく、字体や記号、柄などを併用する

例) 見分けやすい色の組み合わせ



例) 見分けにくい色の組み合わせ



例) 明度差をつける



例) セパレーションを用いる

